

コロナ禍でクリエイイトした町内行事新スタイル ゆうびん・ポストイン・オンライン・ドライブスルー（後編）

北海道苫小牧市 拓勇東町内会副会長 佐藤 一美



行事スタイル オンライン（〇）

緊急事態宣言が明けてからも、みんなが感染拡大の不安や負担を感じなくなるまでは、極力集わないスタイルで町内会を運営することにしました。一部役員との間ではZoomやLINEのビデオ通話

でオンライン打合せを行っていましたが、FAXや文書で対応しなければならぬ役員もいました。年間行事予定を全て変更しながら運営する中で、話し合わないと前に進めないのです、30代の役員に協力してもらい、役員のZoom研修会を行いました。

スマホは持っているけれどやったことがないという部長、副部长たち10名が我

が家と会長宅に分散して集まり、別々の部屋に入ってもらい一人ずつネットの設定をしました。自分のメールアドレスがわからない、という困難なケースもありましたが、奮闘の末、なんとか全員の顔がZoom画面に映し出された時は思わず拍手がわきました。

そして、令和2年度最初の各専門部会議をオンラインで開催しました。その際、各部長がそれぞれデリバリーの弁当やスイーツなど手配して副部長宅に「置き配」、会議に引き続きオンライン懇親会も行い、同じものを食べながら連帯感を高めました。書面議決や非対面会議のみで、共に汗をかくことがなくなって薄れつつあった役員間のチーム意識を、「画面越し

に再び高めることができました。

さらに、町内福祉会館にWi-Fiを設置し、会館でもZoomができるようになり、スマホを持たない高齢の役員など数名のみが会館に集い、他の役員は在宅のまま役員会を開催できるようになりました。これにより、仕事や介護、子育て等で午後7時に会館へ集うことが困難だった役員たちの負担が大きく減ることもなりました。

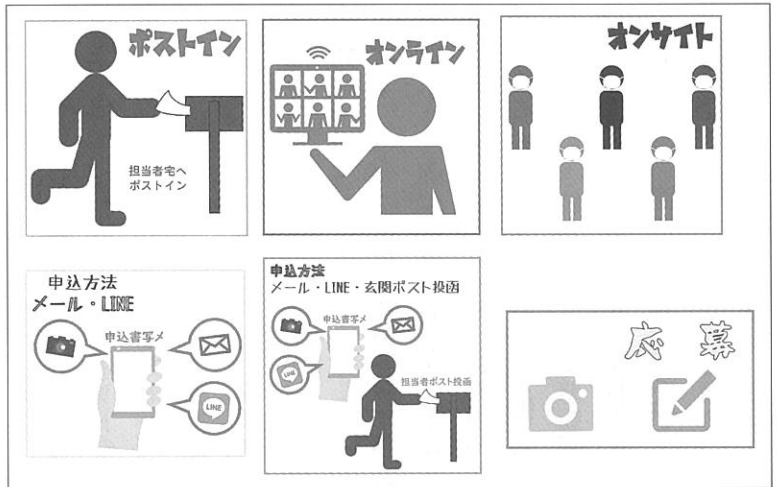
オンライン行事を開催するにあたって、町内会員を対象としたリハーサル会も行い接続を確かめたあと、理容師の役員に「前髪カット講座」をしてもらったり、遠隔の講師にワークシヨップを発信してもらったりしました。講座の最後には「キー



Zoomクリスマスミーティング 参加者記念撮影 2020年12月

ワード」を伝え、参加者は後日そのキーワードで特典がもらえるようにもしました。

毎年多くの幼児たちが参加する「英語ロコハロウィン」も、初めてオンラインで



会報をわかりやすくするために作成した「様々な行事スタイル」のアイコン

開催し、小学生の兄妹たちも一緒に参加できました。トリック・オア・トリートの代わりに、終了後、町内福祉会館駐車場でドライブスルーし、窓から「キーワード」を言うとお菓子がもらえる方式です。

クリスマスも同様にZoomで行いました。町内会報で有志（大人）を募り、予めオンラインで何度も練習した英語のクリ

スマスキャロルを披露しました。これは、親以外の大人たちが、地域の子どもたちのために何か一生懸命する姿を見せることが、クリスマスを町内会で行う意義だと思ったからです。小学校の先生、札幌在住の合唱部の大学生、海外の友人も協力してくれ、オンライン行事のさらなる可能性を感じました。

他にも、中高生が楽しめるオンライン脱出ゲーム会や、Zoom親子こうじ料理教室など、数々のオンライン行事運営の経験を積んだところで、毎年80名が会館に集う年度初めの班長区長会議を、オンライン・オンサイト（会館）、YouTube限定配信から、選んで参加できる、「密」と、時間的拘束“のどちらも回避する町内会議スタイルをついに構築できました。

行事スタイル ドライブスルー＆ウォークスルー（S）

毎年、会員非会員を問わず75歳以上の町内在住者を招待する「長寿を祝う会」。こんな中でも、高齢者の年に一度のお楽しみをなんとか開催できないかと模索し

ていた頃、アメリカの友人の Facebook に、高校ドライブスルー卒業式の写真がアップされました。これにヒントを得て、安心して参加できる「ドライブスルー＆ウォークスルー長寿を祝う会」を企画しました。

指定された時刻に会場（小学校）へ車か徒歩で来てもらい、お祝いセット（お祝い弁当、お祝い酒、子どもたちが描いたお祝いのメッセージや絵、参加返信はがきに書かれた高齢者の皆さんの一言などをまとめた通信）を受け取り、ご自宅でゆっくり召し上がってもらうスタイルです。例年、参加者は70名未満でしたが、今回は招待状を送った230名中、130名から参加申し込みがありました。

密を避ける工夫として、集合時間を分散させ、遠くからも識別できるよう引換証を色分けし、ルートもグラウンドから入り、車から降りることなく駐車場出口から抜ける一方通行です。ウォークスルーは、車との交差を避けるためグラウンドとは反対側の正門での引き渡しとし、役員が誘導したり、幟を立てたりし、当日は全く混乱なくお祝いセットを渡すことができました。

今回に限り「代理の家族への引き渡し可」と案内しましたが、ほとんどの方が家族の運転する車に乗って小学校までいらっしやいました。町内会長が車の窓から一言ずつ声をかけて手渡しし、ほんの短い時間ながら会話を交わし、参加者の元気な姿を見ることができました。はがきの交流でお互いに名前を覚えた方と実際に対面し、車の窓越しに「エア・ハイタッチ」する姿もありました。

これに加え、返信はがきの「一言欄」に



ドライブスルー長寿を祝う会 101歳の参加者 2020年9月

ほとんどの皆さんが前向きな日々の過ごし方や、役員へのねぎらい、「こんな時でも私たち高齢者のことを考えてくれてありがとう」等、感謝の言葉を書き添えてくれており、役員一同、これまで以上に高齢者の皆さんに親近感がわきました。

例年、参加者全員で記念撮影をし、パンザイをしておりましたが、今回はそれができないので、役員が各自自宅で「パンザイ」をし、その写真を合成し皆さんに配る通信「敬寿しんぶん」に載せました。この新聞を、町内役員やお祝いメッセージに協力した小中学生たちにも配布したところ、高校生役員が「お年寄りがどんなことを考えているのか初めて分かった」と言っていたり、わが子の写真やメッセージが掲載された保護者たちも、地域の高齢者の思いにふれることができた、と関心を持ってくれたり、目的以上の波及効果がありました。

散りばめたしかけ

令和2年度は、少し先の状況すら予測がつかない中、できることが限られました。



長寿を祝う会で配布した「敬寿しんぶん」 リモートバンザイする部長たちと高校生役員。たくさんの地域の子どもたちもメッセージを寄せてくれた 2020年9月



たくさんの地域の人々の
笑顔を載せようと努力した
令和2年度の「町内会報かがやき」
自分たち家族や友だちの写りが掲載されて
いるとしっかり読んでもらえる効果あり

しかし、チャットやオンラインを活用して話し合いを重ね、各専門部の独立した行事を、束ねたり絡めたりして非対面の物足りなさを補いました。

例えば、抽選会の応募用紙に「我が家の防災備蓄品アンケート」欄をつけ、その結果を全戸に配布する町内オリジナル防災カレンダーで紹介したり、応募の際に高齢者への祝いメッセージを同封すると

当選確率がアップする特典をつけたりするとという具合です。このような「しかけ」を忘れずかき集め、次の行事につなげました。やがて、町内会の行事を楽しみにしているという反響が聞こえてくるようになります。これまで積極的でなかった方々の参加が増えました。

コロナ禍で非対面を強いられたからこそ、意識的に言葉や文字で他者を想う気持ち

ちを表す機会が増え、その結果、地域の中に温かい交流がいくつも生まれたことは、禍転じての大きな福でした。この12年間にコツコツと築いた絆という土台があるからこそその効果ともいえるでしょう。これら新しいスタイルの町内行事をさらに発展させ、地域の皆さんに必要とされる町内会でありたいと願います。